

## どうすればなくなるのでしょうか！

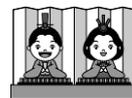
人権という言葉からあなたはどんな印象を受けますか？

「とても大切なもの」それとも「なんだか堅苦しくて難しいもの」、「自分には関係ないもの」でしょうか。

「人権とは、すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」、あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」であり、だれにとっても身近で大切なもの、日常の思いやりの心によって守られるものだと思います。

「人権」は難しいものではなく誰でも心で理解し感じるものです。しかし現実の社会では、保護者からの虐待によって子供の命が奪われたり、パートナーからの暴力によって心や体に深い傷を受けたりすることがあります。高齢だから、障害があるから、同和地区出身者だから、外国人だからということで差別を受けることもあります。ハンセン病に対する誤った認識や偏見により、現在でも故郷に帰ることができない方もいます。どれも悲しく痛ましい人権問題です。このようなことがどうして起こるのでしょうか。どうしたらなくせるのでしょうか。

◆**訃報** 1月26日、国立ハンセン病療養所長島愛生園で療養されていた加西市出身、谷川秋夫氏が94歳で亡くなりました。加西市では人権啓発の一環として長島愛生園訪問を実施しています。謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。



### ◆「ふたたび SWING ME AGAIN」上映会 1月28日(日)実施

昨年の「あん」上映会に引き続いて、ハンセン病回復者の人権について考える、「ふたたび SWING ME AGAIN」の上映会を開催しました。折しも、谷川秋夫氏のご逝去の新聞報道もあり、定員を上回る来場者があり、観ていただけなかった方も多数ありました。当日は「世界ハンセン病の日」でもありました。

内容は、50年ぶりに仲間と再会するための旅に出たハンセン病回復者の元ジャズ・トランペッターとその孫(鈴木亮平)との姿を、往年のジャズナンバーと共に描く心温まるロードムービーです。ハンセン病に冒されて50年以上もの隔離生活を強いられた主人公(財津一郎)とそのジャズ仲間(犬塚弘、藤村俊二、佐川満男など)との友情や、家族とのきずな、愛など、人生で大事なものに再び向き合う主人公の姿に感動を覚えました。

### ◆「フィラデルフィア」上映会 12月9日(土)実施

「フィラデルフィア」は、HIV感染者、性的マイノリティの人権について考え、エイズに対する<差別>と<偏見>に立ち向かった映画でした。

映画鑑賞後のアンケートでは、「私たちの身の回りでは人権問題と感ずることが少ないと思われる HIV 感染者や性的マイノリティの人権を考える機会となる映画でした。」など多数の感想をいただきました。



## 主な人権啓発事業



### ★ハンセン病パネル展 平成 30(2018)年 1月 23日(火)～2月 1日(木)

全国には加西市が訪問している長島愛生園を含め、13か所に国立ハンセン病療養所があります。ハンセン病患者・家族は、明治40年に法律第11号「癩予防ニ関スル件」が制定されてから、平成8年に「らい予防法」が廃止されるまでの約90年間、国の誤った強制隔離政策により、深刻な人権侵害を受け続けました。そのようなハンセン病療養所の歴史を物語るパネルを展示し、ハンセン病に対する誤った認識の解消を目指しました。

加西市では、ハンセン病を理解し、差別・偏見の解消を願い、同じ過ちを二度と繰り返さないという思いを込めて、今回のようなパネル展や啓発映画会、長島愛生園訪問等を実施しています。ちなみに、長島愛生園は、昭和5(1930)年、日本初の国立ハンセン病療養所として岡山県邑久郡(現瀬戸内市)の長島島内に完成し、昭和18(1943)年には2,000人以上が収容されていました。



## 身近な人権問題

人権にかかわる身近な話題を提供します



### 性的マイノリティに関する人権

日本には、LGBTの人が13人に1人(約7.7%)の割合で存在するといわれております。これは、左利きの人や血液型がAB型の人の割合とほぼ同じです。

LGBTとは、レズビアン(女性の同性愛者)、ゲイ(男性の同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(身体と心の性が一致していないため身体の性に違和感を持ったり心の性と一致する性別で生きたいと望んだりする人)の頭文字をとって組み合わせたものです。

性的指向は様々で、グラデーションのようであると表現されております。現在の社会は、誕生した時にそれぞれの性に振り分けられ、その性で生きることを強く期待する社会です。しかし、すべての人がその枠組みに入るわけではありません。その枠に入りきれない性的マイノリティの人たちは、悩み苦しんでいます。

セクシュアリティ(性のあり方)に関係する「からかい」や「差別的な言葉の暴力」により自尊心を傷つけられるだけでなく、不登校、自殺につながることもあります。こういったことをなくすため、学校に限らず一般社会においても「性的マイノリティ」の方々がストレスを感じることをない社会となるよう、個々の多様性を尊重し、あるがままの存在を理解する姿勢が私達に求められています。

※表題「散歩道」という名称は、平成13(2001)年度まで人権啓発冊子で使用されていました。

※人権啓発の各事業参加者アンケート結果は、加西市ホームページに掲載しています。

(トップページ→「暮らす」→「安全安心のまちづくり」の「人権教育・啓発活動」→「啓発活動」へ)